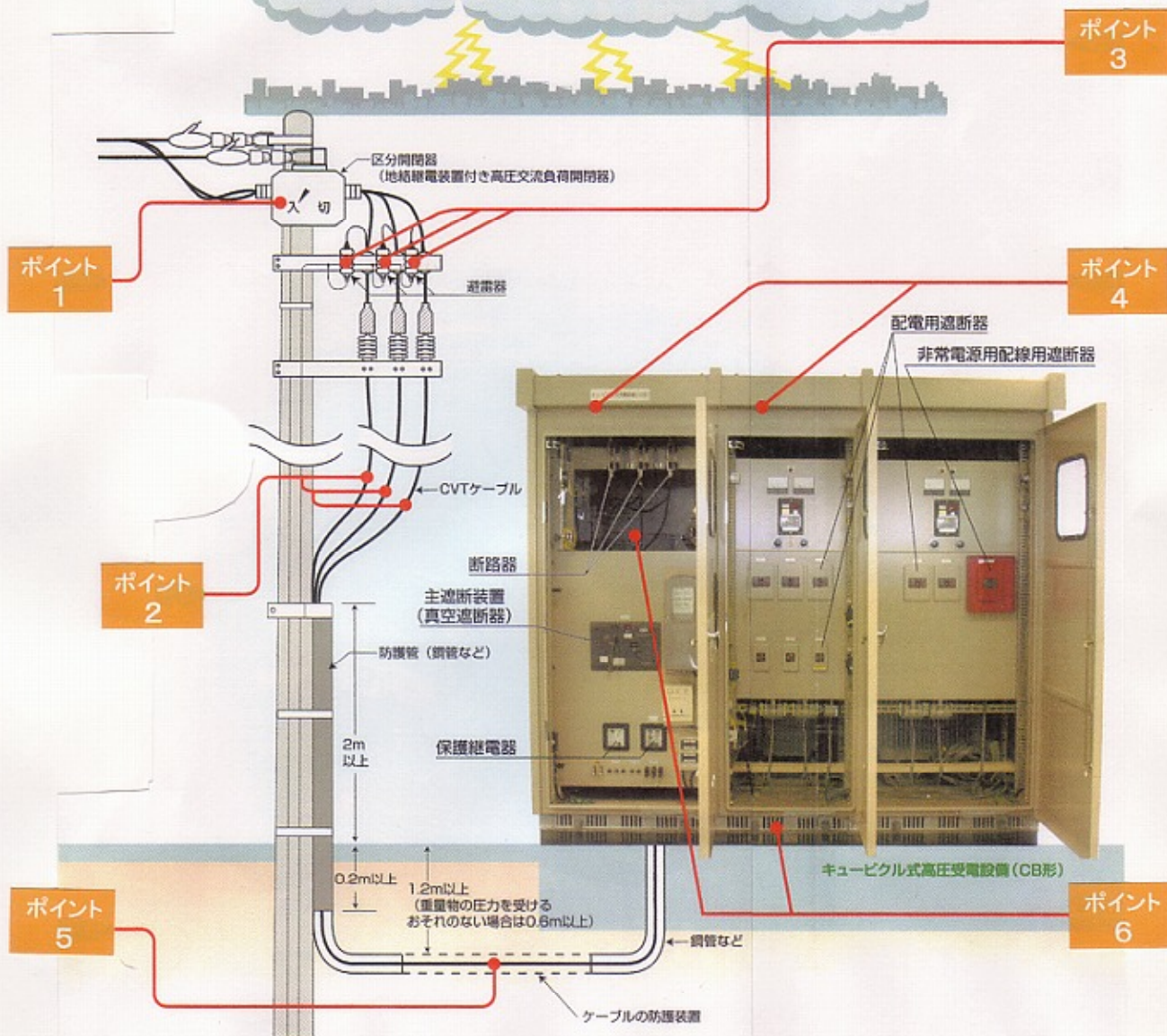


受電設備は大丈夫ですか？



波及事故を防ぐには、確実な点検による不良箇所の早期発見が極めて大切です。

受電設備事故が起因して波及事故となったもののうち、主な原因とその対策ポイントを紹介します。
ぜひ今一度、電気主任技術者とよく相談して、受電設備からの波及事故を未然に防止しましょう。

保守不備対策のポイント

ポイント
1

区分開閉器の点検・取り替え

- 使用条件の厳しい屋外に設置された区分開閉器（地絡継電装置付き高圧交流負荷開閉器）は、風雨、雷害、汚損、塩害などにより、施設後10年以上経過したものに故障の発生が多くみられます。
- 定期的な点検を実施し、不良を発見したら、速やかな改修処置をお願いします。
- 塩害地域ではステンレス製のGR付き高圧負荷開閉器の採用をお奨めします。



ポイント
2

施設年の古いケーブル

- 自然劣化が原因とみられているケーブル故障は、施設後15年以上経過したCVケーブルなどに発生が多く見られます。
- 定期的な点検を実施し、不良を発見したら、速やかに改修処置をお願いします。



水トリーケーブルの外観



故意過失対策のポイント

ポイント
5

掘削によるケーブル損傷

- 構内において、建物改築などで掘削中に誤ってケーブルを損傷する事故が発生しています。
- 地中ケーブルの埋設位置に標柱・標石、ケーブル埋設上部にはケーブル標識シートを布設すると事故防止に役立ちます。
- 掘削工事をする場合は電気主任技術者と事前に十分な打ち合わせを行ってください。



自然災害対策のポイント

ポイント
3

雷害対策

屋外に施設された区分開閉器の故障の発生が多くみられます。
●雷による機器類の損傷を防止するための最も有効な対策として、避雷器の取り付けがあります。

●GR付き高圧負荷開閉器は屋外に設置されており、雷による影響を受けやすくなりますので、避雷器を併設するか避雷器内蔵タイプの機種を選定し、確実な保護をお願いします。



LA内蔵
GR付き高圧負荷開閉器



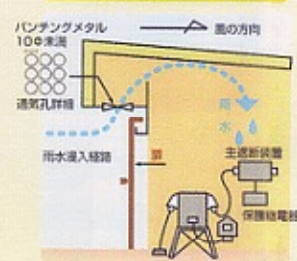
避雷器の構造（カットモデル）

ポイント
4

台風などによる 暴風雨対策

●通気孔からの雨水浸入や扉などの腐食破損による雨漏りのおそれがないか、注意してください。
●屋外キュービクル式の設備では、扉などに隙間、施錠の不具合はないか、注意してください。

雨水浸入図



暴風雨対策図

【対策例1】



【対策例2】



鳥獣接触対策のポイント

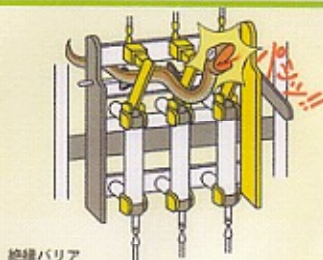
ポイント
6

小動物対策

●ケーブル引込口や受電室の破損箇所から小動物が侵入し、高圧充電部に触れたことによる短絡事故の発生が多くみられます。

小動物の侵入するおそれのある穴やすき間は、シール材などによる閉塞処置やパンチングメタルによる防護を確実に実施しましょう。

●断路器・限流ヒューズ付き高圧交流負荷開閉器・変圧器・コンデンサなどの高圧充電部に絶縁バリアや防護カバーを取り付けると、万一小動物が侵入しても高圧充電部への接触を防ぐことができます。



絶縁バリア



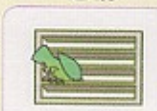
高圧絶縁電線
PF・S形の主遮断装置
（限流ヒューズ付き高圧交流負荷開閉器）



変圧器高圧充電部の防護カバー

改善前

通気孔



ケーブル引込口・引出口



キュービクル下部通気孔

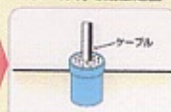


改善後

金網・パンチング板の施設



シール材で閉塞処置



パンチング板の施設

